

全国青年市長会「日本を元気にする施策2020」 優秀施策投票結果について

1 優秀施策

<会員投票>

1位 山形県南陽市 職員が考案した『避難所状況WEBアプリ』

[得票：64点]

LINEを活用した専用WEBアプリで、市内の指定緊急避難所の開設状況や混雑状況を把握し、災害時の避難所での新型コロナウイルス感染症対策を図る。

2位 三重県桑名市 子育て世帯オンライン申請推進事業

[得票：38点]

保育所（園）の一斉申し込みにおいて、LINEによる申請を全国の自治体で初めて導入。申請用紙、必要書類を写真に撮り送信する「自宅に居ながら手続きを済ませる」新たな申請手続きを実現。

3位 大分県別府市 「#別府エール飯」プロジェクト (新型コロナウイルス感染症対策事業)

[得票：36点]

コロナ禍の飲食店を応援するためのプロジェクトを実施。利用者と飲食店の双方が SNS（インスタグラム、Facebook、ツイッター）で「テイクアウト」メニュー等の情報を「#別府エール飯」とハッシュタグを記載して発信し、利用を促進させる取り組み。

<一般投票>

1位 富山県射水市 あったか家族応援プロジェクト

[得票：487点]

『家族いっしょに食事 おしゃべり お手伝い』を愛ことばに、家庭・学校・地域が一体となって家族の在り方を見つめ支える取組。賛同する企業や各種団体（あったか家族応援隊）の輪を広げ、イメージソングや動画投稿などの様々な取組を通じて、市民全体であったか家族を応援する。

2 概要

49歳までに当選した市長で構成される全国組織「全国青年市長会（令和3年2月5日現在会員87市）」では、未曾有のコロナ禍のなか、首長がその若さと柔軟な発想力、持ち前の実行力を発揮し、様々な特色ある施策で日本の元気の原動力を担ってきた。

「日本を元気にする施策2020」は、会員市長が行っている優れた施策やwith コロナのなかにあってもまちが元気になる施策を募集し、ノウハウの共有化を図り、施策そのもののブラッシュアップやカスタマイズ化による全国への標準整備と横展開をすることにより、会員市から日本を元気にすることを目的とする。

3 施策募集

令和2年10月14日から令和2年11月30日までの期間で会員市に募集し、40市94施策の応募があった。

4 投票

令和3年1月18日から令和3年2月5日（一般投票は2月7日）までの期間で、会員市からの会員投票と、ホームページからの一般投票で受付を行なった。会員投票は53市、一般投票では584件の投票があった。

5 集計方法

会員は優秀と思われる第1位から第5位を投票してもらい、第1位5点、第2位4点、第3位3点、第4位2点、第5位1点とし、累計点数が多い方から順位を決定。

一般投票は1人につき第1位から第3位を投票してもらい、第1位5点、第2位3点、第3位1点とし、累計点数が多い方から順位を決定。